

アトピー性皮膚炎と皮膚の感染症

アトピー性皮膚炎の治療に取り組んでいて、最も注意しなければならないものの一つに感染症があります。何故なら、アレルギーと感染では、治療法が全く違うため、間違えるとかえって悪化させてしまうのです。

一目でそれと判る場合もありますが、アトピー性皮膚炎に合併しているのですから、判断しかねる事のほうが多くあります。その一つは疥癬症です。

疥癬症はヒゼンダニという 0.3~0.4mm の小さなダニの皮膚感染症なのです。このダニは、布団や埃の中にいるダニと違って、人の皮膚が、すみかなのです。皮膚の角質層内や毛穴に潜っていて、角質層に横穴を掘り、卵を産み付けていきます（疥癬トンネル）。一か月間は卵を産み続け、卵は 3~4 日で幼虫になります。10~14 日たつと卵を産みはじめます。

感染は人から人へ、ですから、たいていの場合、見当がつきますが、なかには感染経路が全くわからないこともあります。ステロイド剤を塗布しますと最初は効いたように思われるのですが、だんだん広がり悪化していきます。重症のアトピー性皮膚炎と見分けがつかなくなることもあります。治療薬はクロタミトン（オイラックスクリーム）の外用剤が有効です。また、内服薬のイベルメクチン（ストロメクトール）がよく効きます。卵には効かないので、2週間開けて、2回服用します。この内服薬は、乳幼児と妊婦さんは服用できません。

疥癬症は 30 年毎に大流行する皮膚感染症だったのですが、今では 30~40 年間ずっと感染が続いています。様々な理由があると思います。

次に、感染症で問題になるのは、余り知られていないのですが、非結核性抗酸菌（マイコバクテリウム アビウム、マイコバクテリウム イントラセルラーレ、マイコバクテリウム カンサシなど）による皮膚感染症です。アトピー性皮膚炎の上にはまたはアトピー性皮膚炎らしく見えるところに感染が起こる為、うっかりステロイド外用剤や、ゲンタマイシン軟膏などを塗り続けています。そして良くなることはなく、悪化していきます。免疫力の強い場合はそれでも自然治癒することはありますが、糖尿病、高齢、浮腫、過労などで免疫力が低下している場合は黒ずんで潰瘍を形成してきます。循環が悪くなり組織が崩れたりもします。抗結核薬や一般的な抗生物質はほとんど効き目がありません。オリーブの若葉エキスが、よく効きます。これを外用剤として作り塗布し続け、内服も行いますと治っていきます。エビデンスは無く、私たちの経験だけなのですが、何年も治らなかつた潰瘍を伴う湿疹が 1~2 か月で快方に向かいます。

次は真菌類の感染について、ですが、次号に報告したいとおもいます。